

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200074		
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会		
事業所名	グループホームひめど		
所在地	上天草市姫戸町姫浦2544-6		
自己評価作成日	平成26年2月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1丁目13番205号		
訪問調査日	平成26年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは地域の中心にあり、中学校、商店、郵便局、美容室、市役所の支所等があり、散歩中などは、気軽に近隣の方から声をかけていただき、また、買い物や散髪なども手近にすませることができる。医療面でも階下が医院であり、主治医とも密に連携が行える。運営面ではISOの認証取得、記録システムの導入、接遇講師を招いての研修、エビデンスケアについての勉強会など継続的にサービスの改善・向上に取り組んでいる。建物内の環境についても、清潔さを心がけ、居心地の良い空間となるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の交流や活動に自然と取り組まれています。運営推進会議においても積極的な意見や提案があり、地域の人から身近な存在の事業所として認知され、協力体制が出来ているようです。外出支援にも積極的に取り組まれ、地域の行事はもちろんのこと個別の外出にも利用者一人ひとりの生活を尊重された支援ができています。記録システムを5年前より導入され、記録の簡素化・情報の共有などに職員のアイデアや意見を取り入れられ、働きやすい環境及び質の向上に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目につくところに掲示している。今回の自己評価作成に当たり、現在の理念を職員がどのように受け止め何を大切に思い実践につなげているのか、一人一人の思いを話し合うことで、理念の再確認と共有が図れた。	管理者とスタッフ間で話し合い共通の理解のもとに、スタッフ・利用者・家族がいつも目にするリビングルーム掲げられています。また、スタッフルームの洗面台にもあり、日々繰り返し繰り返し見れるように工夫し、スタッフの心の拠り所となっているようです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	男性職員は地域の消防団に入団し、地域活動を行っている。また、職員は入居者様とともに、当番で地区のゴミ箱清掃やゴミ拾いなどを行い、地区敬老会や運動会などにも参加させていただいている。	施設長自ら地域の消防団に所属されて、助け合いの精神で地域活動には積極的に参加されています。地域の役割は自然と順番が回ってきて、地区のごみ箱の清掃当や清掃活動や行事には利用者と一緒に参加されるとのことです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で介護されているご家族の話や相談を受ける中で、日ごろ労をねぎらったり対応の仕方やサービスについて説明をしたりしている。また、認知症サポーター養成講座講師なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーの方々からは、毎回貴重なご意見やアドバイスをいただいている。内容については、議事録を作成し職員間で回覧し、必要に応じて話し合いを行い、サービス向上に活かせるようにしている。	運営推進会議では、毎回活発な意見が出ています。例として利用者より「入所したからといって、私達を特別視しないでください」との意見が出たり、「行事予定をポスターにして掲示して、待つ楽しみを共有することも意味があるのではないか」との意見が出され、具体的な実践に活かされています。	今後の事業所の取り組み等について、検討を重ねられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加して助言をいただくようにしているが、連携については不足感がある。	事業所よりケアサービスの取り組みなどの相談事・実情についての報告等、積極的に連絡をされ、協力関係を築いていく努力をされています、事業所の相談事には実直に対応してもらっているとのことです。	情報を共有され、更によりよい協力関係が維持されることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施し、職員一人一人が意識し、適切なケアが行えるよう取り組んでいる。例えば、一つのケアを行う毎に声掛けを行い了承を得るように対応を行うなどしている。	年間予定に外部研修が計画されています。内部研修では更により具体的な事項(スピーチロック・ドラッグ等々)を取り入れられています。現場ではその時その時管理者が指導されています。車いすは基本的に移動の手段とし、利用者が安心して自由に動くことができるよう、状態によって居室に畳を入れてベットから布団に変更したりされています。	安心安全に過ごされるように継続して支援されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する外部研修会への参加や日常のケアを見直す機会を月に1回設けて、虐待を行わないケアへの理解と周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会への参加や部署内の勉強会を行っている。また、必要と思われる方へは、説明を行い市の担当者へつなげるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとっていただき説明を行いながら疑問や不安な点がないか確認をするようにしている。法改定時には、説明会を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加いただき、意見・要望をうかがう場としている。その他に、4月の事業計画説明会時などにも同様の機会を設けている。	年に1回経営状況や年間の方針内容等の報告会をされています。家族アンケートより会議の日時の変更や案内の方法(広報誌へも案内の掲載を)について要望があり対応されています。意見箱は設置されていますが、家族は面会時に直接言われることがほとんどです。また家族より施設の講習会や勉強会にも参加したいので参加できる日程にしてほしいとの要望もあり対応されています。	利用者家族の意見や要望を取り入れられ、積極的な対応の継続を期待します
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員満足度調査とその意見の改善策を法人職員全員で話し合う場がある。また、毎月の部署内定例会議で意見や要望を聞く機会を設けている。すぐに改善できるものについては随時行っている。	職員アンケートを項目チェック式と記述式のアンケートを実施して、集計結果を全職員に配布し、出てきた提案や改善策などについて更に職員へ投げかけられています。管理者がすぐに対処できるものは受け入れられています。毎月の部署内の会議で出た意見や要望は、主任者会議で検討されています。施設長しか開けられない意見箱やメールもあります。	運営や管理について職員の声に耳を傾け、活かしていくことが働く意欲及び質の向上にも繋がっているようです。継続されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と個人面談により評価を行っている。また、毎月の安全衛生委員会で職場環境や心身の状況などの把握や整備、対応に努めている。産業医との面談の機会も年2回確保されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課や個人面談を通して把握を行い、力量に応じて研修会の参加や資格取得への支援が受けられる。また、介護職員の介護福祉士会への入会金や年会費の助成を行い、学ぶことへの支援が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の居宅介護事業所連絡協議会や、グループホーム関係団体の研修会への参加などを通して、勉強会や交流の機会があり資質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前から、ご本人を訪問したり、ご家族と面談を行ったりと関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時には時間をとり、ゆっくり話を聞かせていただき、入居後も様子報告を行いながら、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談やアセスメント時に、どのような暮らしを望まれているのかを、ご本人やご家族からうかがい把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のできることに応じて、洗濯物干しやたたみ、料理や買い物、掃除など日々の役割として手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や外出、病院受診などご家族が関わって下さる場面がある。また、ご家族に日常の様子など安心感につながる場面なども伝え関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ゆっくりと地域を見て回れるようにドライブや散歩などをすることで、地域の方もそばに来てくださり話をしたり、様子を見て回れるようにしている。また、行きつけの美容室や商店、喫茶なども利用している。	個別支援については、利用者毎に記録があり事業所としてできる限りのことを支援されています。外食・法事・外泊など家族と連携をして、送迎など支援が必要な場合はスタッフが対応されています。居室の広さを活かし、家族や知人と一緒に部屋での食事会や誕生日祝い・カラオケなどを楽しまれています。お寺詣り・祠詣りなど地元ならではの外出の支援もされています。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援を継続されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性や性格など情報として職員間で共有している。その上で、入居者様間の輪に入りにくい方もはいるよう職員が声掛けをしたり、座る場所なども配慮しながら楽しく過ごしていただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される場合は、ご家族、入居者様の安心が得られるように関係機関と連携を行っている。また、可能な場合は他の入居者様と一緒に面会に出かけ話をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や日々の様子から把握したり、ご家族や関係機関にも協力いただいている。	入所前に関係機関からの情報を得るとともに、日頃の会話の中、家族から情報を得て思いや意向を把握されているとのことです。また利用者本人が直接意向を言われることも多いとのことです。	利用者本人から希望や意向が出ることは素晴らしいことと思います。継続して対応されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から直接うかがったり、プライバシーに配慮し乍ら、ご家族や関係機関にもご協力いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルサインチェックや聞き取りで心身状態を確認し、その日一日の様子なども都度都度記録し、口頭でも申し送りを行うことで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや介護計画のモニタリングなど、各職員が関わり、ご家族とも話をしながら作成している。また、毎月の定例会議でケア内容について検討するようにしている。	スタッフを担当制にしてアセスメント・モニタリングを実施されています。月1回会議を開催し、利用者の変化や気づき等の意見を出し合い、状況によっては介護計画の変更をされています。外出や自宅訪問等家族の受け入れができるか否かの状況を把握しながら計画に取り入れられているようです。	スタッフが一人ひとりの利用者の思いや意向について関心を払い、把握に努めらケアの提供に繋がることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録ソフトを活用し、日々の様子や気づきなどの情報を共有している。また、情報はデータ化しやすく、ケアの見直しや評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、帰省の送迎を行ったり、誕生日はご本人の希望に沿った内容で行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には学校や商店、郵便局、病院などがあり、買い物や用事を近場で済ませることができる。関係者と話をし、学校の七夕行事や地区敬老会に参加したり、運動会を見学したりしている。大勢での外出には母体施設の車を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や急病時は階下の医院を利用しているが、専門医の受診が必要な時は、紹介状を書いてもらい、ご家族の協力をいただきながら受診している。	受診はかかりつけ医を基本とし、歯科は協力機関で受診されています。認知症専門医等の受診は、家族または状況に応じてスタッフも同行されるとのことです。容体が安定した後は主治医へとつなげられています。	利用者が適切な医療を受けられるように継続支援されていくことを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下が医院であり、日ごろから細かな体調の変化などについてもすぐに相談できる。休日や夜間にも主治医へ相談ができ、指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	協力医療機関を定め、入院や緊急時の受け入れをしていただいている。入院された場合は、病院への面会を行うとともに関係者との連携も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	ご本人、ご家族が最期までグループホームで過ごしたいと希望された際には、現時点でどういった支援が可能であるのか、難しいのかの説明や話し合いを、主治医を含めて行い方針を共有している。また、母体施設のバックアップも得ている。	看取りを要する場合はかかりつけ医を交え、家族との話し合いを行い、方向性を決められているとのことです。救急車の要請等状況よりの対応も想定されています。家族が遠方の場合は随時連絡し、家族がおいでになるまで事業所で対応できることを事前に話し合われています。昨年は母体施設の支援を受けて、看取りを行われたとのことです。	事業所の力量や体制を見極め、ほかの利用者への影響も考慮された支援を継続されていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署の指導を受けながら緊急時の対応訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、自主防災訓練を年4回行い、階下の医院との合同避難訓練を消防署の立ち合いのもとに年2回実施している。また、男性職員は地区消防団へ入り、地域との協力体制を築いている。	年4回の自主訓練に加え、階下の医院と合同で3月と9月に防災訓練をされています。地震や台風、火災時の避難経路及び避難方法など毎回課題を設けて訓練をされています。男性職員は消防団に入団し、地域の防災にも貢献されています。災害時の避難先としては近くの母体施設が地域の人を受け入れる予定とのことです。	今後も、地域と事業所が協力して、地域の災害対策に携わっていかれることを期待します。

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業計画に尊厳の保持を掲げ、勉強会を実施したり、言葉遣いや接し方についても、年2回接遇講師を招いて研修会を行い、日々を振り返る機会としている。	ミニ接遇研修会を毎日実施されています。月間でテーマを定め、半月ごとに具体的な実践内容を決められています。また年1回法人全体で接遇のロールプレイング大会が開催され、スタッフの意識の向上に繋がっているようです。家族アンケートにも大会での発表が日々の現場で活かされていることへの賛辞がありました。	一人ひとりの権利を保障し、人格を尊重することが、対人援助の基本原則です。今後も継続していかれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中でも、職員から積極的に声掛けを行い、思いや希望を聴くように心がけている。また、日常の意思決定についても、せかさず、押し付けにならないようにゆっくりと考えていただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の習慣や性格、体調に応じた支援を行うようにしている。外出や個別の希望については、その日にできない場合はいつできるのかを説明するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩に出かけるときも、髪を整えたり身だしなみを整えている。誕生会や敬老会など特別な催しでは数日前から、ご本人、ご家族と相談して着る服を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好を把握するように努めている。また、買い物と一緒に出掛けたり、料理についても味付けやコツなどを教えていただきながら作ったりしている。食器洗いなども手伝っていただくこともある。	献立を事前に決めてしまうのではなく、利用者の希望を聞き取り、毎日の食事内容に反映されています。下膳できる利用者はそれぞれカウンターまで食器を運んだり、ランチョンマットを敷いたり、片づけたり、テーブルを拭いたりと自然に動かれていました。スタッフは料理のコツを利用者から教えていただくこともあり、煮物や和え物などの味付けは利用者がなさっていました。朝はパン食希望にも対応されており、時には手作りのパンとコーヒーを楽しむこともあるとのこと。	今後も、食を楽しむ様々な取り組みがなされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量等は記録システムの活用により随時把握し、飲食がすすまない時は、時間をずらしたり、食べたいものの聞き取りを行っている。また、個人に応じた食べやすい工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり洗面所へ誘導し、口腔ケアの支援を行っている。自分でできない方へは職員が介助を行い、また、夜間に入れ歯洗浄剤で洗浄除菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の状態、間隔、排泄用品を把握している。その上で、トイレへの誘導や支援を行い、気持ちよく清潔に過ごしていただけるようにしている。	一人ひとりの排泄パターンをデータ化し、把握されています。布パンツにパットを敷いた状態を基本とされていますが、寒い時や排泄の量に応じて、布パンツの代わりにリハパンツを使用するなど、状況に応じて対応されています。トイレは利用者の目につきやすいように大きく表示されています。介助が必要と思われる方にはスタッフがさり気なく付き添って、利用者の心の負担軽減のために手際よく介助することを旨とされているようです。	トイレでの排泄および自立に向けての支援を継続されていくことを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄について、母体施設と合同で勉強会を行った。その学びを食事や運動に取り入れるようにしている。また、排便の間隔についても、記録システムを活用し把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとり、安全にゆっくり入浴できるように心がけている。そのため、その日に入浴できる人数や時間帯が限られてしまうこともあるが、可能な限り、希望があれば入浴できるように努めている。	入浴は安全にゆっくりと利用して頂くためにリフトの使用もあります。リフトの乗り降り時にはスタッフが2人体制で対応されています。午後の入浴を基本とされていますが、外出や行事などがある場合は時間帯を変更するなど臨機応変に対応されています。行事風呂は終日入浴可とされ、全員に提供されています。入浴は前日または朝から予定を伝え準備されていますが、拒否の場合は全身清拭や陰部洗浄を行うとともに、時間や日をずらして対応されています。	一人ひとりのタイミングに合わせてゆっくりと入浴を楽しめるように継続支援をされていくことを希望します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその日の状態に応じて、居室で休んでいただいたり、リビングソファでくつろいでいただいたりしている。夜間は、空調にも気を配り、寝具も清潔を心がけ、気持ちよく眠っていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師の指示内容や薬剤の情報については個人毎にファイルし、状態やそれに伴う薬剤の変更などを随時把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日新聞を読まれる方には、記事内容を話していただき聞いたりしている。行事については、例えば、節分では、鬼やおたふく面を色付けしたり準備の段階から参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	ご家族と協力して自宅への帰省などの送迎の支援を行ったりしている。季節ごとには、花見やバーベキュー、敬老会、夜間の虫見学・月見・花火など戸外で楽しめる行事を地域の方からの情報も得ながら企画している。	帰省や法事、買い物などの個別の外出は利用者の希望を聞いて日程を調整しながら対応されています。月見や花火、虫見物など、夜間に戸外に出かけられることもあるとのことです。また外食の時は事前に店舗に連絡し、状況を説明したうえで受け入れを依頼されています。雨が続く場合などは母体施設に行き、地域のデイサービス利用者との交流を楽しまれることもあるようです。	利用者の状況に応じて、移動手段を配慮しながら、今後も外出支援を継続されていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と相談し、所持されている方、外出や必要な時に手渡す方など一人一人に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	趣味活動で描いたはがきを出したり、返事が届いたりがある。電話は事業所の子機を使用し話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、	観葉植物や季節の花を飾ったり、本や雑誌などを置き、季節感や生活感を出すようにしている。リビングは必要ないときはテレビを消し、会話をしたり、静かにくつろげるようにしている。	リビングには週刊誌や新聞、本が置かれています。特に新聞を読まれる方が多いとのことです。またリビングや廊下には利用者によって、季節の花が飾られ、それを通じて話が広がることもあるようです。リビングの窓は大きく、外の景色がよく見え、太陽や月を眺めたり、梅の花や近所の畑を眺めたりと居心地の良い空間が広がっています。	利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながらの支援継続を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置したり、談話コーナーを設けたりし、一人で過ごしたり、気の合う人と話ができる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や筆筒など使い慣れたものを持ってきていただいたり、ご家族やご本人と相談し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	各居室の面積が広く、ゆったりとしたつくりになっています。個人の部屋に集まって、おしゃべりを楽しまれることもあるとのことです。フローリングの洋室を利用者の状況にあわせて、家族と相談の上で畳を入れて和室に設えたり、タンスやソファ、本棚など利用者の使い慣れたものを持ってきていただいたり、ぬいぐるみを飾るなどその人らしい居室作りがなされています。	利用者の方々が落ち着いて過ごせる工夫をされ、相手に合わせ支援が継続されることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合わせて、手摺の設置や居室の模様替えを行っている。また、トイレや自室がわかりやすいように表示したり、暖簾をかけたりにしている。		